

## 「笠踊り・四ツ竹踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

枕崎市立立神中学校

### 2 学年・人数

中学2年生・3年生（塩屋地域の女子11人）

### 3 日時・場所

#### （1）練習の場所・日時

塩屋公民館（4月～10月）

#### （2）発表の日時・場所

立神中学校文化祭 平成28年11月2日（水）

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

#### （1）名称

塩屋笠踊り・塩屋四ツ竹踊り（しおやかさおどり・しおやよつたけおどり）

#### （2）由来等

枕崎市の小湊地区（現在の塩屋南・北町）に伝えられる女子の踊りである。今から130～140年ばかり前、小湊の船員たちが山川港に鰹釣り用の餌入れに行った。その時寄港していた沖縄の船員たちから習い覚えて伝えたものであるといわれる。習い覚えての帰りに穎娃あたりで踊ってみたら、忘れてしまった箇所があったので、又山川港に引き返し、再度習ったという伝えがある。

浴衣に色帯を締め色物の前掛けをし、横鉢巻きで笠（タカランバッチョ）をもって踊る。もともとは男の踊りであったが、現在は女子（おなご）の踊りになっている。

### 5 保存会や地域との連携の具体

（1）立神校区の塩屋地域に伝えられ、「塩屋笠踊り・四ツ竹踊り保存会」が組織されている。

（2）平成28年度は、塩屋地域の小学6年生～中学3年生女子の指導を行い、地域の公民館祭りで披露した。

（3）練習は、保存会や小・中学校塩屋育成会の協力のもと、夜に公民館で行っている。

（4）平成26年度から、保存会に立神中学校文化祭への出演を依頼した上で、塩屋地域の中学2・3年生女子が文化祭で全校生徒に披露し続けている。ただし、正式な装束衣装では着付けに時間がかかるため、法被を着ての出演となっている。今後もこの体制で文化祭でも伝統芸能を継承する予定である。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

塩屋地域では、郷土芸能である「笠踊り・四ツ竹踊り」を公民館の活動項目の中に組み入れ、地域の運動会や敬老会、公民館祭り等で披露したり、枕崎市文化祭や各種イベントに出演したり、昨年度は国民文化祭にも出演したりするなど、幅広く活動を行っている。かつては、当地域の中学2年生の女子が伝統芸能を引き継いでいたが、現在の少子化にともなって、当地域の小学校6年生から中学3年生までの女子を対象にして、積極的に取り組んでいる。伝承活動として、これからも塩屋地域の小・中学生女子で引き継いでいくと思われる。

## 7 取組の様子（立神中学校文化祭）



【笠踊り】



【笠踊り】



【四つ竹踊り】



【四つ竹踊り】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

### 【保護者】

- ・ 塩屋地域の笠踊り・四ツ竹踊りは、戦後、長年引き継いできた伝統芸能である。私自身も二十数年前、中学2年生の時に、保存会の方々から教わって、様々な行事等で披露してきた。その当時から、装束衣装や笠・四ツ竹の道具、曲も変わっていない。もともとは、鯉船が寄港するときに大漁や家族の無事帰還を祝うために、三味線と唄者のリズムに合わせて、港で盛大に女性たちが踊っていたと聞いている。昔は、生三味線や生唄であったが、保存会メンバーの高齢化にともない、現在は、録音テープを流しながら踊っている。

## 【保存会】

文化祭で披露することで、塩屋にはこういった伝統芸能があるということを他の生徒たちにも知ってもらえるきっかけにもなるし、踊ることによって、地域を「誇り」に思っただけという願いもある。生徒のアンケート等からもとても好評であることが分かる。

塩屋地域に中学時代に住んでいた保護者と練習会で話す機会があったが、自分たちが中学2年の時に踊ったことのある笠踊り・四つ竹踊りが、今度は自分の子どもたちが引き続き踊っていることに頼もしく感じており、親子間でも踊りの話題で話が盛り上がるという。

保存会としても、このまま伝統芸能を引き継いでいきたいという願いと、そのためにも世代交代で指導できる後継者を増やしていきたいという願いをもっている。今後も伝統芸能の継承活動を行っていきたい。

## 【教職員】

立神中学校でも、十年ほど前までは文化祭で披露していたこともあったらしいが、いつの間にか文化祭では踊らなくなったようであるが、一昨年からは、正式に保存会や塩屋育成会に依頼した上で文化祭でも全校生徒に披露するようになった。今年で3年連続の出場である。保存会では、文化祭前に2回の練習を設け、女子生徒たちに懇切丁寧に指導してくださっている。文化祭当日も、頭にはちまきを巻いたり、法被や道具、踊りの配置の最終確認を行ったりするなど、立神中文化祭に積極的に貢献してくださっている。2・3年生の塩屋地域の女子に限定しているのは、体育館の舞台が狭いので、人数的に十人前後がちょうどいいことと、1年生の女子に参観してもらって、翌年度2年生になったときには同じように舞台上で披露するんだという意識を高めるためでもある。